インタビュー

既報の通り、OEM（相手先ブランドによる生産）、ODM（相手先ブランドによる設計・生産）を手掛けているマッコーニホールディングス（本社・東京）はこのほど、上海にある日系三工場を傘下に入れた。コスト高でメリットが失われているという中国生産を今、なぜ拡大するのか、曾藝文社長に聞いた。

今、なぜ中国を拡大

マッコーニホールディングス
社長　曾　藝文氏

サンプル機能を強化

中・高級品生産拡大の機会

――四国ソーイングが中国に設けていた三工場を買収されました。

「我々はブラウス、ドレスなどの軽衣料が得意だが、買収した三工場はジャケットなどの重衣料が上手く、相乗効果がある。最近、欧米の受注が非常に増えてきている。生産キャパの拡大で受注をもっと増やせるし、三工場の日本の得意先を継続することで日本向けも増やしていける。日本向けの閑散期である三、四月と十、十一月が欧米向けの繁忙期に当たり、工場の安定稼働にもつながる。三工場の約六百人、六十万枚が加わり、グループ人員は二千人を超え、二〇一四年の年間生産量は三百万枚くらいになる」

――日米欧の市場に取り組んでいますね。

「マーケットリスクを避けるため日米欧とバランス良くやることで経営が安定する。現在、日本向けが一〇%、米国が三〇%、欧州が六〇%の比率。欧州はH&Mのアッパーライン『COS』、マックスマーラの『マックス&コー』が主力で、中でもCOSの軽衣料の六〇%は我々が生産しており、主力生産拠点である蘇州マッコーニの八〇%がそれで埋まる。そのためほかのアイテムを増やせなかったが、三工場が加わり、欧米のジャケットを取っていける。中国での生産はなくならないから、今が規模を大きくするチャンス」

――中国生産は人件費の高騰、労働力確保難で競争力が弱まっていると言われています。

「確かに中国はコストが高くなり、チャイナ・プラスワンへの進出が増えているが、プラスワンは人件費は安くても、生産性が低かったり、物流のリードタイムが長い。中国は生産効率が高いし、素材・副資材や二次加工などのサプライチェーンが確立している。メーンのCOSやマックスマーラも結論としてはプラスワンの生産はまだ早いとし、逆に中国生産を拡大する傾向。今、ジャケット関係はほとんど東欧で作っているが、中国で可能であればシフトしたいという。だから中国で中クラスからアッパーのゾーンはまだまだいける」

――今後の重点は。

「蘇州マッコーニはサンプルルームを拡大している。以前は量産ラインが二十四班あったが、今は十八班。一フロアの六班をCOSのサンプリングセンターにし、現在、布帛の軽衣料サンプルは蘇州マッコーニがすべて製作している。絵型が来てパターンを引き、開発サンプルを作る。パタンナーも約三十人に増えた。我々のグループで量産キャパがない場合は、指定された工場にパターンや仕様書などを送る。マックスマーラからもそういう取り組みを求められている。これからは中国での提案を強化する。お客の企画に合わせた生地を提案し、パターン、サンプルすべて受け、製造まで取り組む。この機能を強化していく」